

2021年・企画ガイド

大和深見の史跡と下鶴間探訪

日 時：10月16日（土）

コース：瀬谷駅北口広場→境川遊歩道→坊之窪石仏群→深見諏訪山遺跡→中屋敷中央公園(WC)→
深見城跡(深見歴史の森)→諏訪神社→矢倉沢往還・下鶴間宿→鶴林寺→下鶴間ふるさと館
解散 12:30頃 [徒歩約7km]

	ポイント	由来・歴史
1	境川遊歩道	境川は、町田市相原の草戸山の北東面に源を発し、東京都と神奈川県境界に沿って南東へ流れ、大和市付近から南に流れを変えて江の島付近で相模湾に注ぐ川で、全長約52Kmの2級河川。川の名称は、かつて相模国と武蔵国の国境とされていたことに由来。藤沢市鷹匠橋から大和市大和橋に至る全長18.5Kmに「藤沢大和自転車道」を設定。
2	坊之窪石仏群	七基の石仏神があるが、これらは昭和54年(1979)に建てられた石碑に刻まれた「石佛神御動座の辞」によると、昭和53年(1978)の近隣の道路拡張整備の際に鎮座してあった地神塔、道祖神塔、庚申塔を集め、奉ると記されている。
3	深見諏訪山遺跡	昭和56年(1981)の発掘調査により発見された、旧石器時代から縄文時代草創期にかけての遺跡。遺跡より約2万1千年以前の石器類が出土した。出土した黒曜石の石槍には中部山岳地方の石器と共通した加工が施されていた。
4	深見城跡(深見歴史の森)	境川に面した大和市内で最も保存状態の良い遺構。南北約100m×東西約150mの城の北側から東側は切り立った崖で、南側は外堀/内堀の二重の空堀が、また、西側には天竺坂が巡り、敵が一気に主郭内になだれ込められない造りになっている。城の構造から室町時代の築城と考えられている。城主は、山田伊賀守経光とする伝承がある。
5	諏訪神社	創建年代は不詳も、千有余年前すでに鎮座されていたと伝承されている。祭神は建御名方神(タテミナカタノカミ)。諏訪神社は、相撲の神様としても有名で、明治19年(1886)には横綱・梅ヶ谷、常陸山などの奉納相撲があった。本殿には、江戸時代後期に成立した剣道の四つの新興流派の分布が記載された北辰一刀流奉納額がある。
6	矢倉沢往還と下鶴間宿	江戸青山から、長津田、下鶴間を抜けて矢倉沢峠を経て御殿場に至る街道で、東海道が出来るとは主要街道。その後、東海道の脇往還として重要な役割を果し、大山参りが盛んになるにつれ大山街道と呼ばれ、街道沿いの宿場町は賑わいみせた。下鶴間宿には旅籠、餅屋、質屋、染物屋などが軒を並べており、伊能忠敬測量隊が文化13年(1816)に、蘭学者・渡辺崋山が天保2年(1831)に宿泊したとの記録がある。
7	鶴林寺	創建は永禄12年(1569)。ご本尊は阿弥陀如来。鐘楼は享保2年(1717)建立。明治6年(1873)に小学校「鶴鳴学舎(下鶴間学校)」が貸家を校舎として設立され、その後、村立鶴間学校と改名され、鶴林寺境内に移転。境内には学校跡を示す石碑がある。
8	下鶴間ふるさと館	旧小倉家住宅の母屋と土蔵を復元(大和市指定重要文化財)。母屋は、安政3年(1856)に建設された宿場の商家建築としては県内では数少ない建物。展示品は明治期の薬品類、郵便局だった時代の郵便保護銃など。旧小倉家の復元解体時に発見された床板裏面には、黒船や大工の名前があり、建築当時の世相が垣間見られる。

*コースは、道幅・歩道が狭い箇所や生活道路を歩きます。横に広がらないようご協力願います。

<次回案内> 旧東海道 大磯宿を訪ねて

日時：2021年11月20日（土）JR・大磯駅 9時～15分受付

スタッフ募集中！

せや・ガイドの会：竹見（☎：045-302-3663）までお問合せください。

ホームページ「せや・ガイドの会」[検索] <http://www7b.biglobe.ne.jp/~seya-guide/index.html>